

# 文教いしかわ

BUNKYO ISHIKAWA 石川県文教会館 2023.8 No.88



## －特集－

1 頁：「文教会館開館40周年によせて」

2・3頁：特集 いしかわ百万石文化祭2023の開催に向けて

4・5頁：インタビュー 「人」

石川県文教会館 館長 橋本 祐之氏

石川県民文化スポーツ部長（いしかわ百万石文化祭推進室長） 戒田由香里氏

陶芸家 飯田 雪峰氏

## 「文教会館開館40周年によせて」

石川県文教会館 館長 橋本 祐之



文教会館開館40年を迎えるにあたり、これまでご尽力いただいた関係各位の皆様方に深く感謝するとともに、過去の歴史を振り返りながら、今後の文教会館についてあらためて考えていきたいと思っております。

### 1 今までの文教会館のあゆみ

文教会館は、教育団体の活動や事業の拠点を目指し、地域住民や教育関係者の相互交流を図りながら、石川の教育財産の蓄積に資することを目的にスタートいたしました。

「文教会館を本県学校教育の拠点に」「多くの先生方が気軽に利用できる施設」「ホールで子どもの出演する催し物を」「教育現場のサークル活動の場」「一般社会人の教育に対する関心を反映する場」など、開館当時の本館に寄せる思いは壮大で教育の殿堂とも言うべき、多方面から総合的に教育を眺める県民との接点としての施設を目指していました。

その中で「文教クラシックコンサート」は昭和61年～平成16年に至る19年間に70回の公演を行い、県民・市民のクラシック音楽に接する機会づくりに大いに貢献しました。

また、平成2年～13年には海外ホームステイ（高校生・大学生対象）を実施し、若者のグローバルな視点の醸成に寄与いたしました。

現在、教育関係事業として、国際理解講座を展開しております。当初からCLC（カルチュラル・ラーニング・センター）として、単に外国語講習だけではなく、異文化理解と日本文化の再認識を促すことを目的とし、現在まで受け継がれている事業です。

芸術文化振興事業としては、地元劇団公演、クラシックコンサート、講演会、教育文化研究会を展開してきました。文教クラシックコンサート事業は、現在「文教アートウェイブ」として引き継がれ、先生方や子どもたち、さらに地域の団体の舞台芸術活動支援として開催しております。

平成16年から新たに、教育資料収集整理事業として県内の貴重な教育関係資料を散逸・廃棄から守り、調査収集を継続しております。平成17年には、「いしかわの教育歩み展」として、収集した資料を展示し、好評を博しました。また平成18年からは、「教育資料ロビー展」として県内各高校さらに教育テーマに沿って常設展示し、現在に至っています。

本館の姉妹館であった「アートシアターいしかわ」（ラブリック町7階）での事業としては昭和62年に開設されてから今日まで、ホール・ギャラリーの貸付、芸術文化自主事業、「子ども芸術文化セミナー」を展開し、特に「いしかわ県民陶芸展」は36回を数え、県民に好評を得ております。

今年度は文教会館開館40周年記念事業として、「教育史セミナー」、「いしかわ県民陶芸展」、「教育資料ロビー展」を実施します。「教育史セミナー」では、記念式典、記念講演会を行います。「石川県のふるさと教育史」と題して、教育資料を効果的に活用する工夫をご講演いただき、今後の教育資料収集整理に生かしていく予定です。また、いしかわ百万石文化祭応援事業として「いしかわ県民陶芸展」の時期を早め、特別賞を設けるなど、盛り上げていくこととしております。「教育資料ロビー展」は、文教会館40周年の歩みとして、今後検討を重ねていきます。これらの事業が文教会館の歩みを振り返るとともに、これからの文教会館のあり方を考えるきっかけになるよう、しっかりと準備を進めてまいります。

### 2 今後の文教会館について

#### (1) 基本概念

昭和58年当時の初心を忘れず、教育関係者が気軽に集える施設でありたいと考えております。教育関係事業、芸術文化を柱として、教育関係者・県民・市民が広く教育に関心を持ち、幅広い方々の交流を通して教育について語り合う場、また趣味としての活動を続ける場を提供してまいります。

#### (2) 教育資料の収集・保存・活用

石川の教育を支えてきた各学校由来の物品や教科書・関係書籍さらに教育関係資料を多面にわたって収集し、その保存、遺物ではなく活用を図る現存物として大切に、充実・活用に引き続き努めてまいります。

#### (3) 公益財団法人としての性格

「石川県の教育文化の振興発展に寄与する」と標榜しております。地域や関係諸機関との連携を図りながら、教育文化の振興に努めてまいります。

#### (4) 新規事業の開拓

日々変化する課題を多く抱える教育現場に対して、一助となるよう、時代に即した新規事業・取組を計画してまいります。

#### (5) 事業収益

独立事業体としてできるだけ収益を上げるための広報活動、情報提供などの努力を継続してまいります。あわせて、教育関係団体や周辺企業等に対して、廉価な利用料金で利用できることや、金沢コンベンションビューロー等関係機関との連携により、学会等の誘致に努めることにより、利用の促進に努めてまいります。

以上述べてまいりましたが、文教会館開館40周年を迎えるに当たり、県民・市民の皆様には、今後とも本館事業へのご理解を賜り、一層のご支援とご愛顧のほど、よろしくお願い申し上げます。

特集

## いしかわ百万石文化祭2023の開催に向けて

石川県県民文化スポーツ部次長（いしかわ百万石文化祭推進室長） 戒田由香里



今秋、本県で開催される「いしかわ百万石文化祭2023」。44日間の期間中に石川ならではの文化資源を活用したイベントや文化団体による27の全国大会など、県内全市町で約150の多彩な文化イベントが開催される。開催が間近に迫っている現在陣頭指揮を執っている戒田次長に、現在の取り組みと見どころを紹介していただいた。

## （気運醸成を図るPR活動）

「いしかわ百万石文化祭2023」は、31年ぶり2回目の開催となる国民文化祭と、初開催となる全国障害者芸術・文化祭を一体となって開催するものであり、開催まで、いよいよ2カ月余りとなりました。

大会を成功に導くためには、多くの方にこの大会を知っていただくとともに、県民総参加で盛り上げていくことが大変大事だと考えております。このため、開催までの日数を刻むカウントダウンボードを、金沢駅東広場をはじめ、県庁舎、小松空港、のと里山空港に設置しているほか、本年4月から、金沢市を皮切りに、県内の19市町において、大会旗を巡回リレーで展示しているところがあります。

このほかにも、金沢近郊エリアを、大会公式ポスターデザインを全面にラッピングしたバスが運行しているほか、バスが金沢駅を発着する際に、大会スペシャルアンバサダーの野村萬斎さんの音声で開催アナウンスをするなど、大会への関心を高めているところがあります。



【100日前イベント（7月8日）】

さらに、大会の魅力を広く周知するため、県内外においてPRイベントを実施しており、県立音楽堂での100日前のイベントでは、大会に出演する石川ゆかりの文化の担い手の皆さんによる

和と洋のステージを披露していただいたほか、来年2月に公開を予定している映画「レディ加賀」主演の小芝風花さんに、石川の文化の魅力を語っていただき、大会のPRにもご協力いただきました。

また、県外からも誘客を図っていくため、東京のアンテナショップや有楽町マリオンなどでPRイベントを行うこととしており、これらのイベントでは、会期が4週間重なる「奥能登国際芸術祭」もPRするなど、地震災害からの復興に向けてのメッセージも発信していくこととしております。

開催が間近に迫っている、これからの約2か月間は、集中的に大会をPRしていくこととなります。まず、大会のすべてのイベントを紹介する「公式ガイドブック」を作成し、全国に配付していくほか、新聞、ウェブ、旅行雑誌への広告や、テレビ・ラジオCM、金沢駅構内でのデジタルサイネージやタペストリーの掲出など、順次、展開していくこととしております。

## （県内全域で多彩なイベントを展開）

今回の大会では、「文化絢爛」を大会のキャッチフレーズに掲げ、10月14日から11月26日の44日間にわたり、本県が誇る「伝統文化」をはじめ、



チームラボ《金沢城の石垣に住まう花と共に生きる動物たち》

©チームラボ※イメージ画像



食・祭り・温泉などの「ふるさと文化」や「里山里海」など、石川ならではの幅広い文化を最大限に活用した多彩なイベントのほか、文化団体による「全国大会」など、県内全域で約150のイベントを実施することとしております。

中でも、全国的に大きな注目を集める文化イベントとしては、県立美術館と国立工芸館の2館共同で、地方では最大規模となる「皇居三の丸尚蔵館収蔵品展 皇室と石川」を開催するほか、金沢城公園において、世界的な人気を誇るアート集団「チームラボ」による大規模な光のアート展などを実施することとしております。

さらに、県立音楽堂では、大会の音楽アドバイザーである、作曲家の池辺晋一郎さんによる子どもたちとオーケストラ・アンサンブル金沢との楽しい演奏会や野村萬斎さんの演出・出演による『山月記・名人伝』のほか、直木賞作家・米澤穂信さんの『本と鍵の季節』を原案に、金沢市出身の水橋文美江さんが脚本を手掛け、大会アンバサダーの声優、寺島拓篤さんが出演する朗読劇、漫画『テルマエ・ロマエ』の作者ヤマザキマリさんらの温泉文化をテーマにした講演会など、豪華な出演者により大会を盛り上げていただくこととしています。

このほか、今回の大会では、金沢ばかりではなく、加賀や能登でも多くの地域の特色を活かしたイベントを開催することとしております。ぜひこの機会に、北から南まで19の市町を巡ってもらい、改めて、石川の文化の素晴らしさや、ふるさと石川への愛着や誇りを感じていただきたいと思っております。

## （障害のある人もない人もともに参加）

今回の大会には、障害のある人もない人も、ともに参加し、本県文化の多様性を感じていただきたいと考えております。

具体的な取り組みとしては、「障害者芸術・文化祭事業」として、全国障害者作品展や、障害のある人とない人が一緒になって演奏を披露するステージ、聴覚に障害のある人も楽しめる手話狂言などの県事業のほか、市



【バリアフリーガイド】

町や文化団体においても、障害者アートの公募展や、手話ダンスパフォーマンス、視覚障害者の囲碁大会などを実施することとしております。

こうしたイベントに安心して参加いただけるよう、イベント会場毎のバリアフリー情報をまとめた「バリアフリーガイド」を作成することとしております。

さらに、イベント会場では、手話通訳者や音声ガイドにより、分かりやすく情報をお伝えするほか、「運営ボランティア」も配置することとしております。

## （若者の参加による大会の盛り上げ）

県内の高校生にも大会の魅力に触れてもらうため、世界最先端のARアート制作を学び、体験してもらう「高校生ARアート制作ワークショップ」を実施いたしました。

完成した作品は、現在、大会のインスタグラムの公式アカウントにおいて公開展示していますので、是非、ご覧いただきたいと思っております。



【高校生が制作したARアート作品】

また、先程、ご紹介した朗読劇についても、このイベントに合わせ、中学1年生から満29歳以下を対象に、詩とエッセイを募集したところであり、選ばれた作品を、声優の寺島拓篤さんが朗読するほか、高校生がプロの声優と共演する朗読劇も実施します。さらに、文化団体の全国大会には、吹奏楽や百人一首などの大会にも、県内の高校生をはじめ、多くの若者が参加しますので、関係者の皆様には、是非、会場に足を運んでいただき、応援していただきたいと思っております。

このほか、高校生の皆様には、広報ボランティアや運営ボランティアにたくさん申込みいただいております。こうした様々な取り組みに参加いただくことは、今回の大会でしか体験できない、貴重な機会になると思っておりますし、参加いただいた皆様には、これからの本県の文化を力強く牽引いただくことを期待しております。ぜひ、積極的に大会に関わっていただき、全国の皆さんをおもてなしするとともに、石川の誇る多様な文化を県内外に発信し、未来につなげていただきたいと思っております。



## 陶芸家 飯田 雪峰氏



能都町宇出津生まれ。少年の頃から郷里を離れ、花芸の修行をつみ、造形の途を陶芸に求める。1974年、陶芸工房北陶の開設に参加、1984年、(有)北陶を設立しその代表として多様な活動を続けている。また陶芸教室を開講し創作活動とあわせ、北陸一円の愛陶家の指導にもあたり、陶芸を通して幅広い年齢層との交流等をライフワークとし活動している。

2015年金沢市文化活動賞受賞。いしかわ県民陶芸展審査委員。

インタビュー 文教会館 館長 橋本 祐之

**館長：**今年、文教会館は開館40周年を迎えます。この記念すべき年に、本館の主催事業である「いしかわ県民陶芸展」の第1回から関わってくださっている飯田先生にインタビューをさせていただくことになりました。よろしくお願ひいたします。

**飯田：**よろしくお願ひします。

### ～陶芸家への道～

**館長：**陶芸家の道を選んだきっかけ、その理由をお聞かせください。

**飯田：**私は子供の頃からお花の先生になるのが夢だったんです。高校に行くことをやめて、中学を卒業して金沢へ飛び出してきました。最初は花芸の修行をしていたのですが、陶芸の道を選ぶことになったのはある2人の方との出会いがきっかけです。焼き物を好きなのか嫌いなかわからなかった私に、ある方が「飯田くん、お前みたいなやんちゃものは焼き物をやってみたらどうや」と。もう1人の方は、「陶芸教室をするなら、江戸時代の建物ではないか。その庭は、茶人が監修した最高の庭で、人が通るとその庭も生きてくるから、陶芸教室にぴったりだ。この庭に育てられて生きなさい」と。単純な理由ですが、その2人の方との出会いで陶芸の道を選び、現在の北陶の設立につながっています。



**館長：**陶芸教室から始まり、北陶を設立することになったということですが、その時はどのようなお気持ちでしたか？

**飯田：**草月流の家元がつけてくれた「雪峰」という名前にあるように、私は山に積もった雪が解けて水になって大地の恵みとなる川になりたい、焼き物をただ教えるのではなく、焼き物をする人の個性を形に仕上げるお手伝いをする人間でありたい、陶芸を習いたいという人の役立つ自分でありたいと思いました。そして北陶は、陶芸を習いたい人の身体に宿っている思いを形にするお手伝いをするのが仕事だと感じました。今でもその気持ちは変わっていません。

### ～喜びとは瞬間的なもの～

**館長：**飯田先生との出会いで、陶芸の楽しさ、おもしろさを感じている方が多くいらっしゃると思います。先生にとって、陶芸に関わる中での喜びとは何ですか？

**飯田：**喜びとは、瞬間的なものだと思うのです。窯から作品が出てきた時に、「ああ、いいな」と一瞬感じるけれど、「もっと何かができるんじゃないか」となった時に喜びではなくなってしまいます。

**館長：**喜びとは、一瞬のものなのですね。

**飯田：**人間って喜びで終わったら、そこで終わり。喜びにもっと喜びがあるんじゃないかと思うのが人間なんだと思います。「ほやけども」ということで、また一歩、二歩前に進むことにつながります。

**館長：**飯田先生が出演された「野焼き」のテレビを見させていただきました。先生が男泣きをしたあの瞬間は、参加者の作品を窯から取り出して良いものができて自然に涙が出たのか、参加者が作品を作り上げていった過程に喜びを感じたのか、どちらですか？

**飯田：**それは感謝の涙です。「野焼き」は火起こしから始まり、24時間ずっとかかります。作品を焼いて出すまでの間にいろいろな事があります。今年とれたもみがらを使い、その中に入っている水分も計算して焼きます。ただ、出した時にどう焼けるかは計算ができないのです。だから、出した時には感謝しかありません。24時間耐えてきたことに対し、参加者自身が感動してくれているのが、私の感動、喜びなのです。

**館長：**先生が感動して涙した姿に、もらい泣きしました。

**飯田：**焼き物は土を触っているわけですから、頭で考えず手が覚えていて、「これいいな」と思うのは目で見るのではなく、手が感じて脳に信号を送っているのです。それは土のメッセージ、手の信仰だと私は勝手に思っています。



**館長：**感覚的なところが、お話を聞いていておもしろいなと思いました。



## ～いしかわ県民陶芸展への思い～

**館長:**先生には、いしかわ県民陶芸展に長く関わっていただいております。本陶芸展に対する思いを教えてください。

**飯田:**県民陶芸展には、特別な思いがあります。ご縁あって、第1回から関わることになりました。私自身が作品を展覧会に出品していなかったのが、能登から加賀まで作品を集めるのが私の使命でした。その後、第10回から審査員になりました。展示場所は最初はアートシアターいしか



わ、第27回から文教会館1階のロビー等、第33回からは4階和室へと変わっていきましたが、この和室での開催は、県民陶芸展の心を表現するのにぴったりだと私は思うのです。ある時、5・6歳の子供が出品した作品をお母さんと一緒に見に来ていて、私はひざをつきあわせて子供と同じ目線で話をすることができました。その時、作者と作品解説をする者と、周りの人たちが一体化できる場所というのが和室だと思ったのです。和室という空間は、家族と一緒に作品と対話し、日本的なものの感じ方とか、味わいとか、人との接し方とか、やっぱり日本文化を感じることができる場所です。私の言葉で言うと、4階の和室は家族との集合体です。

**館長:**昨年度も和室で、家族と一緒に先生が作品解説をされているのを動画配信で拝見しましたが、本当に良かったです。

**飯田:**作者と作品解説をする者と周りの人たちが一つになれるところが、この県民陶芸展の一番大事なところじゃないかと思っています。

**館長:**今後、いしかわ県民陶芸展をどのようにしたいと思われますか？

**飯田:**この県民陶芸展において、個性豊かな仲間達が楽しみながら作品を制作し、手のぬくもりを感じられる作品が増えていくことが楽しみです。

**館長:**実際、先生が作品を触って感じるものがあるのですね。

**飯田:**作者の手のぬくもりが感じられるのです。きれいな線でなくても、ごととした感じなのですけれども、それがその人の呼吸なのだと思うのです。動いている感じです。県民陶芸展に出す人は自己流、その人の持ち味が出ています。これが石川の文化ではないでしょうか。そのような作品を見た時に、この県民陶芸展は、県内の陶芸をする人たちのスタートであり、陶芸に関わる人たち

の拠点になればと思います。

## ～子どもたちとの出会い～

**館長:**いしかわ県民陶芸展には、県内の特別支援学校の生徒も出品しています。初心者の生徒が奨励賞をもらい、とても良い経験になったと思います。

**飯田:**以前から、北陶に障害を持った子が習いに来ています。また、私は、県内の特別支援学校に陶芸を教えに行く機会があります。学校では、一緒に陶芸をしたり、会話をしたり、給食も食べたりしました。みんな陶芸をする仲間です。私は、障害をその子供たちの個性として大切にしたいと思っています。私は子供たちと接することによって、その子供たちへの思いができ、自分自身の表現の仕方や人との接し方がそれまでとは変わりました。私は陶芸を教える立場として関わっていたのですが、いろいろな事をその子供たちから、学んでいる気がします。

**館長:**現在の教育の目標になっている、個に応じた指導を先生は以前からされていることがわかりました。

## ～今後の抱負～

**館長:**それでは、最後に今後の抱負をお聞かせください。

**飯田:**この歳になっても、陶芸についてもっと何かをしたいという気持ちを持っています。また、教育に対しても、思うところがあります。子供たちは自分の夢をなかなか話すことができないように思いますが、きっと心の中に宿っているものがあります。私は陶芸を通して、少しでも子供たちの夢を引き出すことに関わっていきたいと考えています。今年の県民陶芸展については、審査員としても、どのような作品が出来上がってくるか、とてもワクワクしております。これからも、頑張らせてもらいます。



事業紹介

## 文教会館40周年記念事業

～いしかわ百万石文化祭2023応援事業～

### ◆第36回いしかわ県民陶芸展 アマチュア作品大募集!!

#### ☆作品募集☆

- 作品規定
- ・未発表の自作品（1人1作品のみ）
  - ・一辺が50cm以内、縦横高さの合計が120cm以内
  - ・団体作品は、展示時に90cm×90cmの範囲内



第35回 入賞作

- 受付日時 令和5年11月5日(日) 10:00～15:00  
 受付場所 石川県文教会館4階和室  
 出品料 一般：2,000円、青少年（大学生以下）：無料  
 審査員 浅蔵五十吉 飯田雪峰 大樋長左衛門  
 （五十音順・敬称略）



第35回大賞  
 神野 友優子  
 「鳥」

#### ☆作品展示☆

- 展示期間 令和5年11月11日(土)～19日(日)  
 9:00～16:30（最終日は15:00まで）  
 展示会場 石川県文教会館 4階和室大会議室（※入場無料）  
 賞状内容 いしかわ県民陶芸大賞、石川県教育委員会賞、文教会館理事長賞、奨励賞  
 文教会館40周年記念・国民文化祭特別賞



応募要項・応募票は、  
 石川県文教会館にあります。  
 また、当館のホームページからも  
 ダウンロードできます。

<http://www.bunkyo.or.jp/>



### ◆教育史セミナー

#### ☆40周年記念式典・講演☆

- 日時 令和5年11月2日(木)  
 14:00～16:00  
 場所 石川県文教会館4階大会議室  
 参加 入場無料、申込不要  
 記念式典 14:00～  
 記念講演 14:30～  
 演題 「石川県のふるさと教育史」  
 講演者 山本 吉次氏  
 （前 金沢大学附属高等学校 校長）  
 概要 文教会館収蔵史料も活用いただきながら、昭和戦前期に実践された石川県郷土教育運動と先生自らの郷土史教育実践について、ご講演いただきます。



### ◆文教会館所蔵教育ロビー展

#### ☆文教会館40年の歩み☆

- 日時 令和5年11月1日(水)～20日(月)  
 場所 石川県文教会館ロビー  
 内容 ・所蔵資料からみる『今』と『昔』  
 ・自主事業（文教国際理解講座、文教アートウェイブ、県民陶芸展など）の歴史をふり返る  
 ・教育史セミナーの資料展示

普段は書物庫に眠っている貴重な写真、教具、書物などが目を覚まし文教会館のロビーに勢揃いいたします。





事業紹介

## 令和5年度 文教国際理解講座

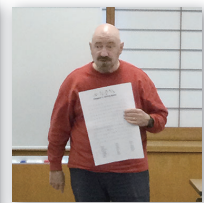
～ネイティブスピーカーと一緒に異文化を学びませんか?～

アメリカ出身のネイティブスピーカーの指導で、言葉や文化を学べます。  
定員に空きのある講座には途中入会ができます。文教会館までお気軽にお問い合わせください。

講座名	内容	曜日	講座時間(100分)
英米文化 初級	挨拶程度の会話をしよう (英検3級程度)	木 木	10:00～11:40 18:30～20:10
英米文化 準中級	英語で簡単なコミュニケーション ができる (英検準2級程度)	水 水 木	10:00～11:40 18:30～20:10 10:00～11:40
英米文化 中級	英語でコミュニケーションが できる(英検2級程度)	火 木	10:00～11:40 18:30～20:10
英米文化 上級	日本語同様に英語でコミュニケー ションができる(英検準1級程度)	火	18:30～20:10

実施期間：令和5年5月～  
令和6年2月  
対象：一般・高校生・教職員  
定員：1講座20名程度  
受講料：年額36,000円  
(年35回)  
(教材は実費負担)  
※途中入会の受講料は  
入会後の回数分となります。

文教国際理解講座 検索



※当館のホームページから申込書をダウンロードできます

## 令和5年度 文教アートウェイブ

～演劇・演奏会・リサイタル等に  
ご利用下さい～

文教アートウェイブとは、地域文化の振興を図ることを目的に、地域で活躍する芸術文化団体に  
舞台発表の場を提供する文教会館事業です。今年も感動のひとつときをお届けします。

### 《今後の公演予定》

★公演の日程等が変更になる場合があります。

金沢高等学校吹奏楽部 サマーコンサート ◆入場無料	令和5年7月29日(土) 14:00～(開場13:00)
文教de Goen コンサート～アンサンブルの魅力～ ◆入場料 一般:1000円/高校生以下:500円/未就学児無料	令和5年8月6日(日) 14:00～(開場13:00)
石川県立金沢桜丘高等学校吹奏学部クリスマスコンサート ◆入場無料	令和5年12月17日(日) 17:30～(開場17:00)
石川県立金沢伏見高等学校吹奏楽部 文化部発表会 ◆入場無料	令和6年3月23日(土) 13:00～(開場12:30)



令和6年度の  
アートウェイブ公演の  
募集期間は  
令和5年5月1日(月)  
より9月末までに  
なります。

### 教育資料収集整理事業

## 「教育資料ロビー展」のご案内

IFロビーにて開催中

「特色ある学校の活動」として、県内にある学校の取り組みの様子を順次展示・紹介しています。  
現在どの学校が展示されているかはホームページでご確認ください。  
You Tubeでの発信も行っていますので、是非ご覧ください！！

教育資料ロビー展 検索



いしかわ特別支援学校



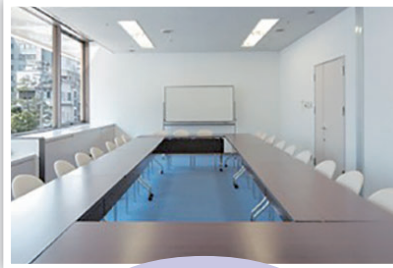
小松商業高校



金沢伏見高校

施設紹介

文教会館の施設ご利用について ~教育文化の発信に 研修・会議・交流の場に~



少人数の打ち合わせから研修・講演会まで様々な用途やご利用人数に合わせた会議室をご用意しています。  
また、和室、茶室、応接室などもどなたでもご利用いただけます。  
お気軽にお問い合わせ下さい。



★新情報★ホールにもWi-Fi完備!

これまで大会議室、和室大会議室など、ほとんどの会議室にWi-Fi機器を設置しましたが、昨年度よりホールにも完備しました。会議室同様Wi-Fi機器は、無料です。

喫茶コーナー「エース」よりお知らせ

~会議の合間にちょっとコーヒーブレイク~

5人以上で会議室をご利用の際は、**5杯以上**のご注文で、ホットコーヒー・アイスコーヒーを、それぞれ1杯あたり**200円**で提供させていただきます。(土曜、日曜、祝日を除く)。  
スタッフ一同ご注文をお待ちしております。



ビーフカレーセット  
食後のコーヒー付き  
680円



コーヒー、紅茶など各種お飲み物や軽食などをご用意しております。会合や会議の後のほっと一息の時間に、ご利用ください。

トースト 240円  
カレー 420円  
ピラフ 390円  
カレーうどん 390円  
パスタ 390円

都心の教育文化のオアシス「文教会館」をぜひご利用ください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

